

部局名

産業動物防疫リサーチセンター

担当: 准教授・目堅 博久



テーマ

宮崎県に飛来する渡り鳥の高病原性鳥インフルエンザウイルス保有状況調査



(上)県内の渡り鳥の飛来地で野鳥糞便を採取します。
(中)発育鶏卵でウイルスを分離しています。(下)鳥インフルエンザウイルスの有無を確認しています。

特色ある取組

高病原性鳥インフルエンザは、強い病原性と伝播性を特徴とする鳥類の感染症です。2022年度は過去最大の被害が発生しており、全国で約1500万羽の家禽が殺処分の対象となっています。産業動物防疫リサーチセンター(CADIC)では、毎年、渡り鳥が飛来してくる11月に、宮崎県内で高病原性鳥インフルエンザウイルスの保有状況調査を行っています。渡り鳥の糞便を採取し、発育鶏卵を使って鳥インフルエンザウイルスを分離、その亜型や病原性を分子生物学的な手法で解析します。高病原性鳥インフルエンザウイルスが分離された場合は、県の家畜防疫対策課や自然環境課と連携して、養鶏家に注意喚起し、サーベイランスを強化します。感染リスクを明確にし、リスクに応じた防疫を可能とすることで、県内の高病原性鳥インフルエンザの発生減少に寄与します。

期待できる成果

本事業により、高病原性鳥インフルエンザウイルスがすでに県内に侵入しているのか、そうでないのかを早期に知ることができます。渡り鳥は常に高病原性鳥インフルエンザウイルスを持っているわけではありません。いつも以上に警戒すべきか、そうでないのかを明確にすることでメリハリのある防疫が可能となります。本事業のようなサーベイランスが行われないと、どうしても県内で1件目の発生があってから防疫レベルを上げることになり、対策が後手となる傾向があります。防疫や予防は、その効果がなかなか実感しにくいですが、CADICが本事業に取り組んだ2021年度以降、宮崎県内での高病原性鳥インフルエンザの発生は、全国での発生状況と比較すると、抑えられているといえるのではないのでしょうか。

参考URL

- ・宮崎県庁HP (CADICの調査結果 中段あたりに記載)
<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/shizen/shigoto/chikusangyo/page00164.html>
- ・宮崎大学産業動物防疫リサーチセンターHP (プレスリリース)
<https://www.miyazaki-u.ac.jp/cadic/news/2021/11/h5n1.html>